

## 令和7年第2回 吉田町教育委員会

---

- 1 開催期日 令和7年2月26日(水)  
開会 午後 1時30分  
閉会 午後 4時02分
- 2 場 所 吉田町役場 5階会議室2
- 3 出席委員 増田 真也 中村 成宏  
大石 佳彦 遠藤 さとみ
- 4 議場に出席した者の職氏名 教 育 長 山田 泰巳  
学校教育課長 桑田 真男 生涯学習課長 山脇 一浩  
学校教育課長補佐 岸端 準成 主席指導主事 水嶋 浩之  
指 導 主 事 田中 久美 指 導 主 事 浅井 健  
学校教育課統括 川本 貴浩
- 5 傍聴人数 0人

### 次 第 (会議録概要)

---

- 1 開 会
- 2 教育長の報告 資料No. 1
- (1) 報告事項 2月の教育委員会の行事
- (2) 町内教職員の状況 はごろも教育研究奨励賞受賞  
(吉田中学校：松本恭子教諭) ほか
- (3) その他 2/4 平和学習開催(高校生平和大使など講師)  
住吉小6年生対象 ほか
- 3 会議録署名委員の指名 遠藤委員

#### 4 議 事

- (1) 第 1 号議案 吉田町いじめ問題調査委員会設置要綱の一部を改正する要綱の制定について 資料No. 2
  - ・事務局説明 ⇒ 採決 ⇒ 異議なし ⇒ 原案どおり承認
- (2) 第 2 号議案 吉田町立図書館の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について 資料No. 2
  - ・事務局説明 ⇒ 採決 ⇒ 異議なし ⇒ 原案どおり承認
- (3) 第 3 号議案 吉田町通級指導教室の設置及び運営に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について 資料No. 2
  - ・事務局説明  
(委員からの質疑)
    - ・言語通級は住吉小に在籍している子供は学校を移動せず、自彊小の言語の先生が住吉小に来てくれるということか。 ⇒ おっしゃるとおり
    - ・発達通級はどうか。 ⇒ 発達通級もどの小学校も児童が移動しなくてよい運営になっている。
    - ・採決 ⇒ 異議なし ⇒ 原案どおり承認
- (4) 第 4 号議案 吉田町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について 資料No. 2
  - ・事務局説明  
(委員からの質疑)
    - ・この点検評価報告書は、誰が誰に対して出すのか。 ⇒ 本議案としては、教育長から教育委員会にお諮りをし、認められたら、今度は教育委員会から議会に提出となる。
    - ・採決 ⇒ 異議なし ⇒ 原案どおり承認
- (5) 報告事項
  - ア 生徒指導について 【非公開】資料No. 3
  - イ 令和 7 年度就学援助費の認定について 【非公開】資料No. 3
  - ウ 指定学校変更の許可について 【非公開】資料No. 3
  - エ 児童生徒の区域外就学について 【非公開】資料No. 3
  - オ 指定管理者の指定（案）について 資料No. 4
    - (委員からの質疑)
      - ・吉田町立コミュニティ広場はどこか。 ⇒ 神戸の大井神社の道を挟

んだところの管理棟と芝生広場の場所

カ 令和7年度当初予算（案）について 資料No.5

（委員からの質疑）

- ・デジタル教科書の予算はどうなっているのか。 ⇒ 算数・数学と英語の2教科は国から無償で提供を受けている。その他の教科は、今の時点では一般財源から持出しとなる。今後のデジタル教科書の扱いがどうなるのか、紙との併用となった時に、どこまで国が補助してくれるかは、今のところ不透明な状況
- ・デジタル教科書は実際に利用されているのか。 ⇒ 利用している。英語などは特に使われている。
- ・発達障害などの関連予算で未就学児の頃からカウンセリングなど連携を図っている予算は。 ⇒ 3から5歳の未就学児に対してことばの教室を自彊小学校の放課後児童クラブの一室を借りて実施している。また、こども未来課のこども発達支援事業所と連携しながら支援会議を年間3回やっている事業も計上している。

#### (6) 協議事項

ア 教育委員会視察について（朝日町教育委員会、さみさと小学校）

・事務局説明【部活動の地域展開について】

（委員からの質疑・意見）

- ・キーワードとして3つ浮かんだが、部活動については、平日と休日の指導者というのが1つで、2つ目がコーディネーターによる指導員の確保、3つ目が地域ぐるみで育てるという視点という言葉が浮かんだ。初めから平日も取り入れることによって、平日の指導員と休日の指導員を同じにすることで、連携というか、生徒も違和感なく活動ができ、いいアイデアと思った。ただ、それも指導員の確保ができてこそであって、それを声掛けするコーディネーターがかなり強い方がいないと。吉田町においてもそういった声掛けができるような存在の方がいると、大きく前進すると思った。地域ぐるみで育てるという視点は、もちろん吉田もそうだが、それをもっと前面に部活動の地域展開において、これからは地域ぐるみでスポーツにしても、文化的活動にしても取り組む時代なのだというアピールを地域の人や保護者にしていくべきだと改めて思った。
- ・去年、今年と視察に行って、視察先の3つの町が全部違っていた。利根町は土日中心の新たな展開で、部活動ではない新しい形。土浦は、

ほぼ教員がそのまま引き継ぐような展開。朝日町は、地域と一緒に指導者を確保してやっていくという一番理想に近い形と思いながら、吉田町はどうしていくのか、特に土日は新しい形にしていくのか、それとももうちょっと朝日町のように部活動に近いようなものに持っていくのか。理想的には、人材を確保することが一番の鍵と思う。朝日町教育長が言った、「人材はどこかに必ずいるのだ」ということが一番心に残った。

- 朝日町の部活については、いずれは全部を地域クラブにするということで、実現できたらいいことだろうと思った。「できない理由を探すよりも、できることを」と朝日町教育長は言っていたので、確かにそれはそうだと思いますが、なかなか簡単ではないと思う。平日に部活動に入ってもらおうということを考えた時に、先生を辞めている方が見てくれるのが理想的だとは思いますが、朝日町の場合は、コミュニティスクールのコーディネーターがすごく活躍してやってくれたということで、吉田町の場合、コミュニティスクールはあるが、コーディネーターではなくてディレクターがいるのであって、コーディネーターというのは地域学校協働本部であって、吉田にはそのコーディネーターがない。それをやっているのは生涯学習課で、実際のコーディネーターではないので、なかなか同じようにはいかないと思った。
- 印象に残ったのが、スポーツ少年団から中学校の部活動に計画的・継続的な一貫した指導が受けられるようになったという話。その中で、例えばスポーツだったら、そのスポーツに優れた選手だった人よりも、どちらかというとコンプライアンスを重視したマネジメントができる方が必要なのではないかということだったが、そういった方をどのように集められるのか非常に考えさせられる視察だった。その中でやはり子供視点で見ると、例えばJリーグにはユースがあって、ジュニアユースがあって、さらに幼稚園や保育園に出前で教えてりしている。それでよく話題になったのが、野球はそういうものを少年団ではやっていなくて、サッカーがみんな根こそぎ幼稚園から取っていく、野球も何とかしないとという話がある。子供目線で行くと、そういうスポーツなり何なり興味があることを継続してやる中で、そういう機会をずっと将来に向けて提供できるという、そういうものが最終的にはあるべき姿なのかと思った。ただ、中学に入っていくなり部活で、そこからさらに高校へと、そういうものが地域と一体となってという時に、コーチとか監督とかだけではなくて、それをマネ

ジメントの経験がある人って絶対いると思う。安全管理や雨天・荒天の時、熱中症アラートが出た時にすぐに連絡が取れる体制など、具体的な話もあったが、そういうマネジメントできる方をどうやって集められるのかというのが課題だと思った。

- 例えば大学の先生は、学生に教えないと研究が続けられないとか、学生に還元しなければいけないところがある。同じように社会人でスポーツをやっているところに補助金など、指導をやってくれたところは何か優遇するとか、今後そういったことの仕組みづくりを考えた方がいい。
- 部活動指導員をやってもらうのであれば、基本はボランティアの気持ちを持った人にやってもらうのが一番いい。報酬がいくらならやるよという人では続かない。思いのある人を探してもらいたい。あまり熱くなりすぎると親とのことがあったりするので、コンプライアンスを守れるような人でないといけないので難しいと思う。
- 事務局説明【リーディングDXスクール事業について】

(委員からの質疑・意見)

- 力を入れるべきだと思ったのは生成AIの利活用。さみさと小では生成AIの活用の4分野、児童・生徒の指導、学校の運営、学校行事・部活動、外部対応4つの分野において生成AIをうまく使っているということで、職員の事務効率のアップにもつながるし、英語の授業にバーチャルのペッパー君を使って、そのバーチャルペッパーと英会話をする授業をやっていたが、スピーキングやヒアリングの能力がかなり上がるのではないかと思った。私の子供はすごく恥ずかしがり屋なので、人との会話はほとんど話さないが、こういう生成AIがいたら、英語も楽しくなるのではないかとワクワクした。生成AIを使うに当たって、非常に便利なのだが、AIが提示する情報をそのまま鵜呑みにするのではなく、批判的に捉えるという視点が非常に大事だということで、生成AIのファクトチェックの授業をまずは教師と生徒に行うことが非常に重要だと思った。生成AIはこれから使わない世界はないと思うので、その危険性、批判的に見る視点を養うような研修や授業みたいなものがとても重要なのだろうと思った。私もこういった会議を生成AIで議事録をつくってもらうのだが、すごくうまくいく。普通に会話をしているだけで、こういう議題があって、今回のこの会議で出た課題は何だって、そこまで提案してくる。生成AIに強い吉田町ということで進めていったら面白いと思った。

- ・生成A Iを使っている英会話は、しゃべれる子がしゃべったからいいのではと思えたが、一番問題なのは単語しか出てこない子が生成A Iを相手にどう学んでいくのかというのが一番気になった。ただ、自己調整しながら学習するためのツールとなっているので、そこをもう少し詳しく聞けると良かったと思うが、しゃべれる子はもちろん会話を繰り返して経験を増やしていけばいいけれど、英語が単語しか出てこないような子がどうしていくのかというところが疑問、考えどころと思ったのが一つと、収集したものが吟味されているかということについては、吉田町もそれなりに考えているのかと思ったりしている。特に、信州大学の佐藤准教授も収集されたものを再構築して、自分なりにまとめていくという話があったが、まとめたものをどうゴールのイメージを持ってまとめさせるか、再構築していったものをどういうふうに子供にまとめさせるのか、教師がイメージを持つことが大切だという話をしていたが、そういうことはICTを活用していく上で大事と思ったのと同時に、もう一つ朝日町教育長が言った、体験していくことも大事なかなと思う。体験していく中で課題を見つけ、その課題を解決するということが、やはり生成A Iを使えばよりスムーズにできるのではないかと思うと、そういった形を模索していくこともいいと思った。
- ・デジタル教科書にして、教科書を持たなくなり登校が楽になったという話について、遠くから通う児童については、荷物が軽くなり非常にいいと思う。私の時代の教科書、昔は小さいものだった。今は、大きくて厚くなっている。カラーのページも増えて、紙も良くなって、重量が重くなり余計に大変だと思う。
- ・生成A Iについて、人工知能なり人間の知能なりとの相互作用を考えた時に、あくまで主体は人間で、G I G Oという言葉。英語で70年代にコンピュータが発達する時に、Garbage In, Garbage Outということで、ごみをインプットしてもごみがアウトされるだけだと。どういう情報を入れるかだと。A Iの実験で悪い言葉、タブーワードをどんどん入れていって、それをどうやって吐き出させて、かなり悪いA Iができあがったとか。やっぱりそこにどういうインプットをしていくかが大事だと思う。例えば、英会話のところでA Iを使うのは非常にいいと思うが、学校でこれからどんなインプットをしたA Iをつくっていくのか、そこは国家戦略の下にしっかりあるのかどうか。そういうところの問題もあるので。本当に道具として危険性も伝えつつ活用をすることが大事だと思う。それ以上に大事なのが、ファク

トチェックというところでは、今、国立国会図書館のデジタルアーカイブが進んできている中でいろいろな検索を掛けて、疑問に思ったこととか、調べることがすごく簡単になっている。吉田町の図書館でも郷土史とかいっぱい眠っているものをAIに打ち込んでいくとか、そんなことをやるとすごく面白いと思う。今は、吉田町の歴史や町の公式ページはAIが拾ってくるが、深く掘り下げた歴史についてAIに入れていくと、公式な記録がないので分かりませんと返してくる。まだまだ学習が足りなくて。そういうところをデジタル空間、バーチャル空間の中で、ちゃんと吉田町の存在を郷土の勉強としても、発信としても残していくということで、AIの活用方法が非常にあるのではないかと思った。

## 5 その他

- ・教育委員報告
- ・令和7年第1回吉田町議会定例会について
- ・令和6年度吉田町教育振興事業表彰 被表彰者一覧
- ・令和7年2月25日付人事異動について
- ・今後の教育委員会等の予定について

## 6 閉 会